

働くよろこびと 社会参加の輪を広げよう

35号

静岡県シ連だより



刈払い機取扱い作業者安全衛生教育講習会の様子

会員の皆様へ

静岡県シルバー人材センター連合会

会長 大村 脩 平(伊東市SC)

会員の皆様には、ますますご健勝で活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、会員数や契約金額等が毎年、減少する中において、「会員百万人」とか「派遣就業延人員三百万人日」といった業績評価指標を掲げたキャンペーンや中長期事業計画の策定が奨励されています。

これは、私たちが運営するシルバー人材センターが法制化から二十八年、国庫補助創設から三十四年経過し、創立、成長、安定を経験して、変革期を迎えているからでしょう。

例えば、これまでの「社会参加」、あるいは「生きがい就業」といった会員のための組織から、時代は高齢者の自立のためのより労働的な意味合いを今、センターに求めています。センター事業は、会員の「共益事業」ではなくて「公益事業」になったわけです。

こうしたことから、増加する高齢者の多様な就業ニーズに応え、育児支援分野や人手不足分野で働く世代の下支えなど社会的要請を積極的に受けられるよう連合会はシルバー派遣事務の一元処理や就業開拓に、会員の皆様のご理解ご協力を得て取り組んでまいります。

第35号 も く じ

会長挨拶 1

全シ協いきいきフォーラム 2

福祉家事援助・IT事業 3

交通事故をなくしましょう！ 知っていますか？ ピカッと作戦！ 4

シルバー派遣事業と適正就業の推進 5

平成26年度生涯現役社会実現環境整備事業実施状況 6

平成26年度シニアワークプログラム地域事業実施状況 7

安全・適正就業推進委員会から 8

全シ協「いきいきフォーラム」が開催されました



このフォーラムは「シルバー人材センターのあり方に関する検討会」の提言を受けて設置した「シルバー人材センター事業運営の具体的手法に関するプロジェクトチーム」が、事業運営の拡大を図るためのヒントや切り口を検討することを目的に、第一回は四月十八日、第二回は八月二十日(いずれも東京)、第三回は十二月十八日(大阪)で開催されました。フォーラムは参加者からの自由な発言によって進められました。基本ルールは「実施は難しいと思われることや、まったく個人的に考えているアイデアであっても構わず発言してよい」「他人の発言を否定しない」の二つです。

意見交換は主に「会員拡大」と「就業開拓」の二つを基本テーマとして進められ、様々な切り口から活発な議論が交わされました。

出された意見・提言の一部を記載します。

- ・センターに対してネガティブな意見をする会員を集め、話をする場を設けている。



活発に意見を出し合う参加者

- ・「シルバーはグサイ」というイメージを持たれがちであるため、イメージチェンジを図っている。
 - ・入会説明会はこれまで月一回であったが、可能な限り随時対応にしたところ、格段に入会者数が増えた。
 - ・就業情報を、市内全戸配布しているチラシを使って公開したところ、多くの入会者があった。など
- 最後に、来年度以降もこのような意見交換会は継続していきたいという意向が参加者から示されました。こうした全国規模での意見交換会は、普段なかなか知ることができない他県の取り組みを知る絶好の機会です。来年度以降もこうした意見交換会が継続されるのであれば、会員の皆様に紹介していきたいと思えます。

(報告：県シ連 山崎)

福祉・家事援助研修・講演会

県内東部・中部・西部・伊豆の四会場において研修・講演会を開催しました。

午前は、基調講演を交え、シルバー会員を中心に各市町の取り組み拡大を狙いとして情報交換会を開催しました。近隣センターの地域の特徴を活かした就業の情報共有することができました。

午後は、広く一般にも公開した講演会とし、開催地シルバーセンターの協力のもと、市町広報に開催案内を掲載することにより、多くの方に参加いただきました。



午前のアンケートでは、「コツコツ積み上げていく事が大切。」「まだまだシルバーのやる仕事がありそうな気がした。」「雑談の中にも、ふとした気づきあり、良い学びの場を提供いただいた。」「午後の部では、四会場共に、「大変良かった。」「よかった。」の声が多くありました。

シルバー会員には、近隣センターの就業実績を自センターの就業に活かしたいとい

う意欲を感じました。この新芽を各センターで育むことで魅力ある就業に結びつけていくことを期待し、また、一般へはシルバーの理解を深める機会となり、新入会員の増強を期待できました。



シルバーITテーブル創生事業 (企画提案事業)

シルバーITテーブル創生事業は、最終年度を迎え、三年間の受講者数の実績は、パソコンの中級程度を目指したIT会員養成講座は二百五十七名。ホームページの更新作業を視野に入れたIT指導員養成講座は三十八名。IT指導員として活躍した延べ人員は、七十二(人日)となりました。



本年度は県内六モデルセンターにおいて講習会を開催しました。

講習会は、団塊の世代を中心とした事

務系会員の実用的なパソコン技能の習得を支援すると共に、IT関連の新たな就業機会の拡大を図り、センターの活性化を目指しました。



また、従前開講のIT指導員養成講座修了のIT指導員を、講師補助員としての技能を身につける場として活用しました。

講習会を開催したモデルセンターにおいては、自センター主催のパソコン講座の新たな講師の発掘の場ともなりました。

●シルバーITテーブル創生事業実績

IT会員養成講座		受講者数	IT指導員実績	
			講師補助員	
東部	伊東市シルバー人材センター (平成25年度モデルセンター)	13	2	
	伊豆の国市シルバー人材センター (平成26年度モデルセンター)	15	2	
中部	吉田町シルバー人材センター (平成25年度モデルセンター)	15	3	
	川根本町シルバー人材センター (平成26年度モデルセンター)	12	2	
西部	菊川市シルバー人材センター (平成25年度モデルセンター)	15	4	
	湖西市シルバー人材センター (平成26年度モデルセンター)	15	4	
合計		85	17	
IT指導員養成講座		受講者数		
東部会場		12		

交通事故をなくしましょう！

知っていますか？ **ピカッと作戦！**

静岡県では平成26年中に交通事故により143人が亡くなり、そのうち半数を超える73人が高齢者でした。また、高齢者が亡くなった事故は夕暮れ時から夜間の発生が多く、なかでも16～20時に約4割が集中発生しています。

この時間帯はドライバーも歩行者も、お互いが見えにくくなり交通事故の危険性が高まるからです。

そこで、静岡県では「ピカッと作戦！」と題し、歩行者・自転車には自発光式反射材の着用を、ドライバーには早めのライト点灯を推進することで、夕暮れ時から夜間の交通事故防止を呼びかけています。

下の「自発光式反射材の有効性」を説明した図にもあるとおり、自発光式反射材を着用している場合、100メートル先からでもドライバーは歩行者を確認することができますが、暗い服装では10メートルまで近づかないと確認することができません。

夕暮れ時、車を運転していると「まだ明るい」「まだ見える」と思いがちですが、車が早めにライト点灯をすることで歩行者からも車の存在が確認しやすくなります。

ドライバーと歩行者が、お互いをいち早く確認するためにも、自発光式反射材の着用と早めのライト点灯を実践して交通事故防止に努めましょう。

ライトオンタイムになったらライト点灯！ ゆうく とき 夕暮れ時の交通事故防止には、早めの点灯が効果的です。

交通事故が一番多い時間帯は、夕方の4時から6時です。この時間帯は運転者、歩行者がお互いに見えづらくなるため危険が高まるのです。自分が明るく目立つことは周囲への「おもしろい」です。ライトオンタイムになったら点灯しましょう。

夏 6～8月 秋・冬 9～2月 春 3～5月

18:00 16:00 17:00



自発光式反射材の有効性 夜間の交通事故防止には、視認性を高めることが効果的です。



※静岡県・静岡県警察本部調査結果及び警察庁交通局監修「安全運転を確かなものにするために」より

自発光式反射材がとっても安心！！

運転者が歩行者を発見して停止するまでの距離は、乾いた路面を時速60kmで走っていた場合、約44mですから“明るい服装”だけでは交通事故に遭ってしまいます。交通事故はお互いの存在をいち早く知ることによって防ぐことができます。自発光式反射材は100mも手前から歩行者・自転車の存在を運転者に知らせることができとても安心です。自発光式反射材の着用による安全な距離があなたの命を守ります。



についてのお問い合わせは

静岡県くらし交通安全課 TEL：054-221-2104

シルバー派遣事業と適正就業の推進

環境変化

シルバー人材センターが設立された高齢化社会の時代から高齢社会、超高齢社会へと変化する中で「高齢者は扶養されるべき社会」から、「働くことを通じて高齢者の希望や能力を生かす社会」へと変化してきました。

シルバー人材センターの就業形態においても、長年、「請負・委任」(雇用によるものを除く)と限定されてきましたが、平成十六年、高齢者の就業機会の拡大を図るため高齢法が改正され、派遣事業(雇用による就業)ができるようになりました。

就業実態に合った契約へ

「請負・委任」での発注者と会員の関係には、雇用関係はなく労働関係諸法(労基法等)や健康保険等も適用はされません。ただし、就業実態からみて、労働関係諸法が適用される場合があります。

請負契約であっても就業実態が発注者と雇用関係にあるとみなされる場合の負傷事故等では、労災保険に加入していないことなどから、働く会員に不利益が生じること

も心配されます。

このため、全ての契約について発注者の指揮・命令の有無等を点検して指揮・命令の発生する就業等は、派遣契約への変更など、適正な契約形態にすることが求められています。

派遣事業の実績

東海四県における平成二十五年度の派遣事業実績は、表1のとおりです。

県内の実施センターは、四センターでした。

実績は、他県と比較して少なく、今後、企業等における派遣就労の職場開拓など、会員の就業機会拡大・派遣会員拡大に向けて、積極的な取組が求められる状況でした。

派遣事業の推進

連合会では、平成二十六年度から各拠点センターにおける契約書等の作成や請求・支払い事務を連合会で集中処理することとしました。

平成二十六年十二月末時点で、派遣契約は十四センターに拡大し、本年度中には法人格を持つ全てのセンターで派遣事業を

施できる体制が整います。

また、県の緊急雇用事業予算を受けて「就業開拓員三名」を雇用し、主に派遣就業の拡大を狙いとした事業所訪問活動を展開しているところです。

就業開拓員は、県内の東部・中部・西部の地域に分けて担当し、十二月までに延べ一、四七三件の事業所を訪問し、就業開拓活動を行いました。

また、活動期間も二十八年二月末まで延長することになりましたので、今後も、各センターと連携した就業開拓活動を進めてまいります。

●表1 派遣事業の実績 (平成25年度、東海4県)

県名	高齢者人口	会員数	派遣就業延人日	派遣契約金額
静岡県	966千人	22,228人	9,839人日	6,032万円
愛知県	1,662千人	34,013人	132,214人日	58,727万円
岐阜県	539千人	14,380人	35,863人日	18,072万円
三重県	480千人	11,078人	31,418人日	18,281万円

参考1

- * 高齢化社会 高齢化率 7%以上 (昭和45年～)
- * 高齢社会 高齢化率14%以上 (平成 7年～)
- * 超高齢社会 高齢化率21%以上 (平成19年～)

平成26年度生涯現役社会実現環境整備事業(生涯設計セミナー・相談会)実施状況

□生涯現役社会とは、誰もが年齢にとらわれることなく生涯を通じて心身ともに健やかで自立した地域生活を送り、豊富な知識や経験を活かして、就労、地域活動、ボランティア活動、生涯学習・スポーツ活動など、様々な分野で活躍することが可能な社会です。このような社会を実現するため、「生涯現役社会実現環境整備事業」では、高齢者が健康で、意欲と能力がある限り年齢に関わりなく働き続けることができるよう、職務経歴や企業年金等の社会保障制度等を踏まえた高齢期における職業生活設計を自ら行い、当該設計を踏まえた働き方を検討・実施することができるようセミナー等実施するほか、個別の相談・援助等を実施することにより、生涯現役社会の実現に向けた高齢者の環境整備を図ることを事業目的としています。

■生涯設計セミナー・相談会実施状況(平成27年1月末日まで)

※相談会参加者数は、延べ人数

開催	開催地	開催日	セミナーテーマ	申込者数	受講者数	受講率	相談会参加者数
第1回	静岡市	平成26年 7月2日(水)	A 「生涯現役に向けた経済設計プランの組立て方」	27	26	96.3%	9
第2回		7月9日(水)	B 「生涯現役に向けた生活設計の進め方」	29	29	100.0%	8
第3回		7月23日(水)	C 「シニアの効果的な再就職活動の進め方」	42	41	97.6%	10
第4回	沼津市	9月3日(水)	A 「生涯現役に向けた経済設計プランの組立て方」	33	32	97.0%	9
第5回		9月17日(水)	B 「生涯現役に向けた生活設計の進め方」	37	34	91.9%	11
第6回		9月25日(木)	C 「シニアの効果的な再就職活動の進め方」	40	37	92.5%	16
第7回	浜松市	10月8日(水)	A 「生涯現役に向けた経済設計プランの組立て方」	39	37	94.9%	13
第8回		10月15日(水)	B 「生涯現役に向けた生活設計の進め方」	36	32	88.9%	5
第9回		10月22日(水)	C 「シニアの効果的な再就職活動の進め方」	39	36	92.3%	15
第10回	富士市	11月12日(水)	A 「生涯現役に向けた経済設計プランの組立て方」	22	20	90.9%	9
第11回		11月19日(水)	B 「生涯現役に向けた生活設計の進め方」	17	15	88.2%	7
第12回		11月26日(水)	C 「シニアの効果的な再就職活動の進め方」	27	24	88.9%	7
第13回	掛川市	12月3日(水)	A 「生涯現役に向けた経済設計プランの組立て方」	24	23	95.8%	9
第14回		12月10日(水)	B 「生涯現役に向けた生活設計の進め方」	20	17	85.0%	3
第15回		12月17日(水)	C 「シニアの効果的な再就職活動の進め方」	17	11	64.7%	2
第16回	静岡市	平成27年 1月17日(土)	C 「シニアの効果的な再就職活動の進め方」	45	43	95.6%	
第17回			A 「生涯現役に向けた経済設計プランの組立て方」	47	44	93.6%	
第18回			B 「生涯現役に向けた生活設計の進め方」	45	43	95.6%	
第19回	浜松市		C 「シニアの効果的な再就職活動の進め方」	29	28	96.6%	
第20回		1月24日(土)	A 「生涯現役に向けた経済設計プランの組立て方」	37	36	97.3%	
第21回			B 「生涯現役に向けた生活設計の進め方」	31	31	100.0%	
第22回	沼津市		C 「シニアの効果的な再就職活動の進め方」	27	26	96.3%	
第23回		1月31日(土)	A 「生涯現役に向けた経済設計プランの組立て方」	29	28	96.6%	6
第24回			B 「生涯現役に向けた生活設計の進め方」	24	24	100.0%	
第25回	静岡市	2月10日(火)	C 「シニアの効果的な再就職活動の進め方」	-	-	-	-
※6社(9回)	県内		「事業所向け出張型セミナー」	134	134	100.0%	14
計				897	851	94.9%	153

(セミナー)



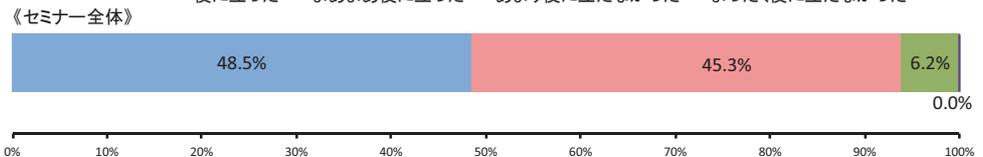
(相談会)



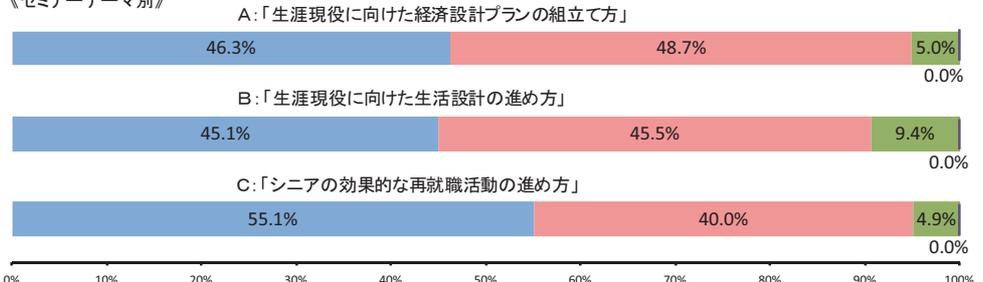
■生涯設計セミナー受講者アンケート結果(有効回答者数:男性587名・女性262名 計849名)

(質問内容)この生涯設計セミナーは、今後の職業生活設計にあたって役に立ちましたか？

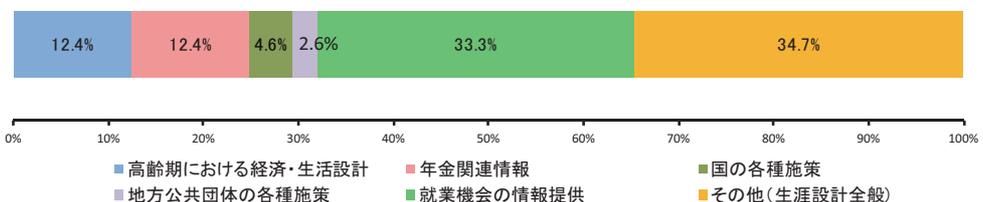
■役に立った ■まあまあ役に立った ■あまり役に立たなかった ■まったく役に立たなかった



《セミナーテーマ別》



■個別相談会での相談内容(有効回答数:延べ153名)



平成26年度シニアワークプログラム地域事業実施状況

【調査目的】

S P 講習会実施内容の検討及び広報活動の検討に資するため

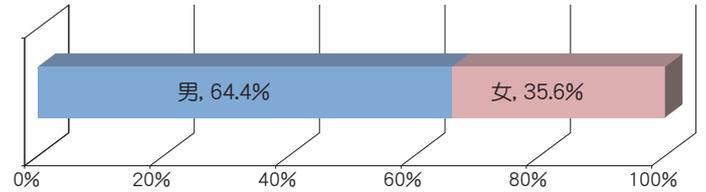
【調査対象者】

平成26年度に静岡県シルバー人材センター連合会が厚生労働省（静岡労働局）の委託を受けて実施したS P 講習会を修了した者全員

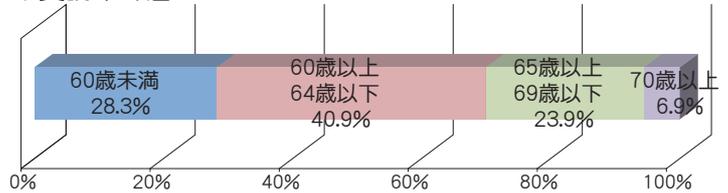
■ S P 講習会実施状況

	講習会名称	実施回数	修了者数	申込者数
介護	介護調理スタッフ	2	30	39
	家事援助サービス	2	25	29
	生活支援サービス	1	11	12
	介護職員初任者研修	4	45	72
	福祉有償輸送運転者	6	98	151
	介護スタッフ補助	2	19	21
一般事務 情報処理	介護事務管理士	2	39	61
	パソコンエクセル基礎	3	50	74
	パソコンエクセル応用	2	33	43
	パソコンワード検定	1	19	21
	行政事務スタッフ養成	3	37	47
マンション管理 警備業	オフィスビルクリーニング	1	6	7
	オフィスハウスクリーニング	1	13	16
	マンション管理実務者	2	38	66
造園業	駐車場整理	1	14	17
	造園緑化サービス	3	43	46
	庭園サービス	4	52	68
運送・運輸業	庭園緑花	1	21	25
	フォークリフト	8	110	170
育児	子育て支援サービス	2	36	41
	危険物取扱者乙4類	3	34	55
小売・ サービス業	調理スタッフ	1	9	20
	総計		55	782

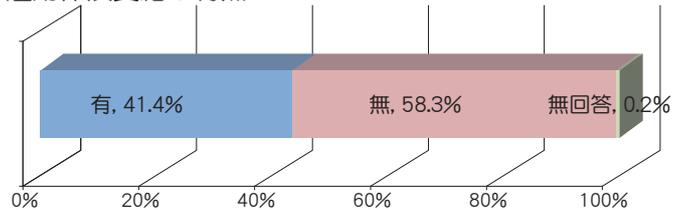
◆受講男女比



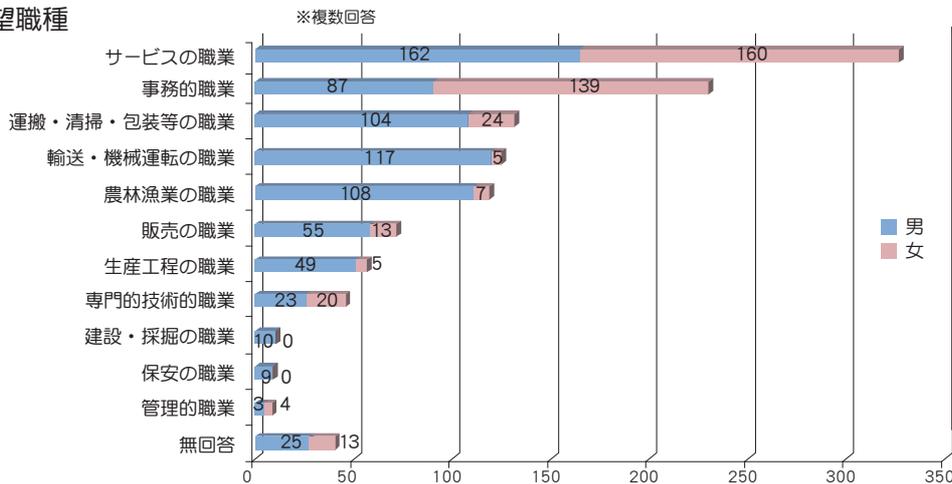
◆受講年齢層



◆雇用保険受給の有無



◆希望職種



【調理スタッフ技能講習】

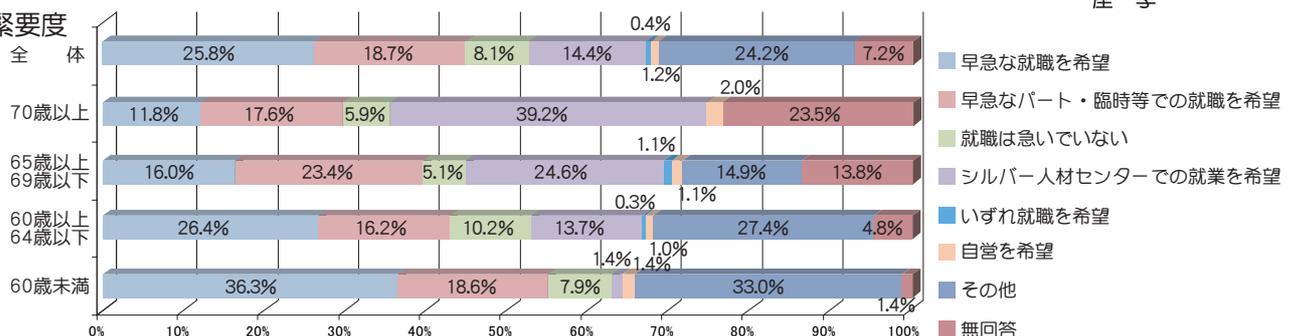


実習



座学

◆年代別緊要度



◆安全・適正就業推進事業の取り組み

県シ連には県内東部・中部・西部各ブロックから選任されたセンターの理事長と事務局長により、安全・適正就業推進委員会が組織されています。委員会では後述する「安全・適正就業推進研修会」「安全就業研修会」の開催やパトロールなどを実施し、事故撲滅に向けて取り組んでいます。今年度は重篤事故こそ減少傾向にあるものの、県内では依然として事故が多発している状況にあり、連合会、センター、会員が一丸となって事故撲滅に向けて取り組んでいくことが必要です。

また今年度は、富士宮市SCが全シ協より「安全就業優良賞」を受賞するという嬉しいニュースがありました。

◆安全・適正就業推進研修会

七月十日、静岡労政会館六階ホールにおいて、県内各センターの職員や安全・適正就業推進委員など一〇〇名が参加し、研修会を行いました。基調講演は「就業中の事故防止対策に向けて」(中央労働災害防止協会 藤原伸郎氏)と、「知っておきたい『アナライキシー』って何?」(ファイザー株式会社名古屋事務所 飯村文章氏)という講演をいただきました。



また事例発表では、今年度全シ協より安全就業優良賞として表彰された富士宮市SCの取り組みを報告いただきました。年間八回にわたってパトロールを行っていることや、独自の安全就業基準を設けていることなどが発表されました。

◆安全・適正就業パトロール

九月十八日富士市、九月二十六日島田市、十月三日御前崎市の三センターにて安全・適正就業推進委員会の巡回パトロールを実施しました。主には除草作業や剪定作業の現場を巡回し、刈払い機使用時の注意事項の遵守や保護具の着用などをチェックしました。

巡回終了後は活発な意見交換が行われました。特に保護具未着用による事故をどのようになくしていくかを中心に検討し、「職員が憎まれ役を引き受けて、繰り返しでないと結果は出ない」「合併前の旧市町単位にそれぞれあった機械品置き場を事務所に集約し、必ず事務所から就業先へ出発してもらうこととした」など、様々な意見が出されました。



◆刈払い機取扱い作業者安全衛生教育講習会

十月十日伊豆会場、十月二十一日静岡会場、十月二十九日湖西会場にて、会員六十名が参加して実施しました。刈払い機使用中の事故防止や作業方法に関する知識等について講義が行われました。また午後には整備・点検の実技講習も行われ、受講者たちは一つひとつの作業を丁寧に確認しながら実習に取り組みました。

講座終了後、林業・木材製造業労働災害防止協会より、受講者に修了証が交付されました。

◆安全就業研修会

昨年度開催した意見交換会の中で、「安全について会員に何度となく注意喚起するが、なかなか聞き入れてもらえない」「会員の意識向上を促すにはどうすればよいか迷っている」という声が多くあったため、県シ連では十二月八日、静岡労政会館にて「コーチングスキル向上による事故防止」をテーマに研修会を開催しました。県内各センターより六十五名が参加し、講師の村上充先生(株式会社インテリクス総研)の講話や実演を真剣な表情で聴いていました。

終了後、参加者からは「クレームなどで会員と面談することが多いので、研修を活かしていきたい」「例を交えてのお話であったので、身近なこととして理解できた」といった感想が寄せられました。



発 行 者

(公社)静岡県シルバー人材センター連合会

〒420-0851
静岡市葵区黒金町 5 番地の 1
(静岡県勤労者総合会館 4 階)

TEL (054) 254-7240
FAX (054) 205-4540
E-mail shizuren@abelia.ocn.ne.jp

発行日 平成27年3月1日
発行人/大村 脩 平
編集人/黒木 秀 樹